

畑中 秋穂（はたなか・しゅうすい）

1、プロフィール

安藤姑洗子の門下として俳誌「ぬかご」で活躍。高松玉麗の「寂光」、吹田孤蓬の「暖鳥」同人。第1回より5回まで県下俳句大会選者。昭和25年「芦光社」を結成した。

<生没>

1909(明治42)年6月17日～1953(昭和28)年9月28日

<代表作>

句集「秋穂」

歌集「釜臥の山」

<青森との関わり>

青森師範学校卒業。八戸市、下北郡、三戸郡で教鞭を執り、俳人として活躍した。

2、作家解説

秋穂畑中浜蔵は岩手県九戸郡種市村に、父嶽兼蔵・母ケンの四男として生まれた。兼蔵は南部藩の勘定奉行を勤めた斎藤三平の子孫。大正15年、岩手県師範学校第二種講習科を修了した秋穂は、九戸郡侍浜尋常高等小学校に赴任。この頃、俳句に手を染める。昭和4年、青森師範学校本科第二部卒業。八戸市立鮫尋常高等小学校訓導となる。同年4月、田名部町新町畑中鉄蔵長女みさと結婚入婿。この年、阿部達三(思水)と共に「浜の家吟社」を創設。

5年、田名部尋常高等小学校へ転任。「ぬかご」誌友となる。7年、田名部に安藤姑洗子を迎え句会開催。田名部吟社結成。「寂光」同人。

10年、三戸郡明治尋常高等小学校、11年、大畑尋常高等小学校、12年、東通村立入口小学校へ転任。「ぬかご」課題選者となる。

14 年、樺太へ渡る。大平小学校に勤務。17 年、再び田名部町に戻り、田名部国民学校訓導として再出発。18 年、上京して「ぬかご」吟行に参加。安藤姑洗子と 11 年ぶりに再会する。21 年、「ぬかご」再刊。同人となる。また、田名部町に「さざなみ吟社」を起こし、かたわら「暖鳥」にも参加する。22 年、第一句集『秋穂』（「ぬかご」社刊）発行。東奥日報俳句選者となる。10 月、下北地方教育事務所に勤務。

24 年、第 1 回県下俳句大会選者となり、以後第 5 回まで継続。25 年、寺嶋朋羽を主宰として「芦光社」を創立し、「芦光」を発行。自らは選者として指導に当たる。

28 年、「ぬかご」募集原稿指導添削を久保田千湖と共に担当。4 月、田名部中学校教諭として現場復帰。9 月 28 日、自宅でテスト採点中に脳溢血のため逝去。行年 45。

「ぬかご」(12 月号)は、「畑中秋穂追悼号」として発行。29 年、「現代俳人名鑑」に掲載される。30 年、芦光社が第二句集『秋穂』発行。59 年、畑中家墓地に句碑建立。

碑文「うもれ咲く花ひるがほは世に遠し」は、高松玉麗の揮毫である。

3、資料紹介

○句集「秋穂」

図書

1955(昭和 30)年 7 月

190 mm × 160 mm

秋穂の昭和 17 年から 28 年までの作品を、芦光社編集部が編集したもの。発行人は夫人の畑中みさ子。序文(安藤姑洗子・寺嶋朋羽・森勇男)巻末に秋穂略歴。後記は斎藤遯人、装丁は鎌田風鈴による。